

4月16日に沖縄国際大学で開く公開シンポ「東アジアの安全保障と沖縄」(主催・同実行委員会)の準備を進めている

レンズ

魚眼



沖縄対外問題研究会の我部政明代表。

「米軍普天間飛行場の返還合意から20年の節目に計画されたシンポ。辺野古の基地は本当に必要なのかというテーマをあらためて考えたい」と話す。

## 辺野古基地 必要性考える

研究会顧問の宮里政玄、北京や沖縄での取材経験もあるジャーナリストのマーティン・ファクラー、国際政治の専門家の李鍾元イジョンウォンの各氏が基調講演。討論には我部氏自身も参加する。「朝鮮半島や中国、日本などの状況と沖縄を照らし合わせて見ることで、安全保障の現状や今後どのような可能性があるのかをあらためて考えたい。多くの方に足を運んでほしい」と呼び掛ける。